

〔問題1〕

（問1）課題文の要約を300字以内で作成しなさい。

解答例

統計学が関連するデータ改ざん事件に、製薬会社に関わったディオバン事件がある。この事件では利害関係にある製薬会社の社員に統計処理を全面的に任せたことにより、データ改ざんがあり、論文が撤回された。この事件を受けて日本計量生物学会は、統計家の人員確保と統計家の行動基準の必要性を提言した。

また、研究者が自身に都合の良いデータのみを証拠としてあげ、都合の悪いデータは公表しない公表バイアスの問題もある。さらに、学术论文の再現可能性について、公表バイアスでは説明できないほど大きなバイアスが存在すると思われる。（249字）

（問2）業務においてデータを取り扱う組織が、倫理上の問題を回避するために、組織レベルでどのような対応が考えられるでしょうか。あなたの考えを400字から500字で述べなさい。なお、課題文は研究に関するものであるが、研究以外の分野（ビジネス、政治など）について述べてもよい。

解答例

組織が構成員に対し、倫理問題に関する教育や研修を継続して実施することが一つの方策である。これにより、倫理的な組織文化・風土の構築が進むと思われる。また、課題文に述べられているとおり、倫理問題に関する行動規範を組織が策定することも方策として挙げられる。組織の倫理レベルを高めるためには、個人の倫理レベルを高めなければならない。上述の教育・研修のベースとなる行動規範の策定が必要である。

他には、構成員が倫理違反を通報できる窓口も必要であろう。これには、記名式だけでなく匿名式での通報を可能にし、ボトムアップ的な通報を可能にすべきである。

さらに、組織の文化・風土や伝統を倫理的な視点から見直すことも必要であろう。

最後に、成果主義に関して述べる。多くの組織では効率性や収益を高めるため、人事評価制度として、成果主義が導入されており、その結果、倫理違反を生み出す可能性がある。ゆえに、人事評価制度の仕組みが、倫理違反を生む可能性があるかどうかをチェックし、必要に応じて修正を行う必要がある。（441字）

〔問題2〕

（問1）本文で示された「グリーンバンスメカニズム」と「第三者による監査」のような日本企業のサステナブルな取り組みの導入背景について、300字以内にまとめなさい。

解答例

日本企業が「グリーンバンスメカニズム」や第三者監査などの仕組みを導入する背景には、原料産地での人権侵害や環境破壊への懸念に加え、欧米大手の先行を踏まえた国際的対応の必要性がある。花王の東南アジアの小規模パーム農園での通報制度や、UCCのコーヒー調達における第三者監督の背景には、環境・人権を重視する消費者の増加やESG投資の拡大があり、不適切な調達がブランド毀損リスクとなることへの危機感が強まっている。(298数)

（問2）本文で取り上げられたような日本企業のサステナブルな取り組みが、国内及び海外においていかなる影響を与えうるのかについて、400字から500字以内で論じなさい。

解答例

本文で取り上げられた日本企業のサステナブルな取り組みは、国内外の多様な主体に影響を及ぼしうる。まず国内では、環境・人権に配慮した商品が拡大することで、消費者・生活者は購入を通じて社会課題の解決に関与できるようになり、倫理的消費の一層の浸透が期待される。同時に、花王やUCC、ロッテ、明治のような大手企業が供給網の改善や生産地支援を進めることで、他企業にも同様の対応を促す「横並び」の圧力が働き、産業全体の調達基準の底上げにつながる。また、ESG投資の観点から、サプライチェーンにおける人権・環境リスクを管理する企業は資本市場から評価されやすくなり、企業行動と金融の連動が進む。さらに、こうした企業の自発的取り組みは、人権デューデリジェンス義務化などサステナビリティ関連政策の後押し材料ともなる。海外では、インドネシアの小規模パーム農園やコーヒー・カカオ生産者が、苦情窓口や第三者監査、生産地支援を通じて労働環境の改善や収入向上の機会を得ることで、児童労働や低賃金といった構造的問題の緩和に寄与し、日本企業のブランド力と国際競争力の強化にもつながると考えられる。(480字)